

発見!

たからモノ ただみの文化遺産

第5回

奥会津文化施設間 連携企画展
奥会津 只見の縄文

現在
開催中



ただみ・モノとくらしのミュージアムでは、奥会津文化施設間連携企画展『奥会津の縄文』（会期：7月22日～11月12日 入館無料）を開催しています。只見町、南会津町、金山町、柳津町、三島町、昭和村、桧枝岐村の7町村の各施設で特徴的な縄文土器や石器などを展示するという初の試みです。

只見町の縄文時代は、縄文時代中期（約5,500年～4,400年前）以降の土器が多く見ついています。それ以前の遺物は、発掘調査された七十苅遺跡から出土した縄文時代前期（約7,000～5,500年前）と考えられる遺物が2点発見されているのみで、遺跡も見つかっていません。

縄文時代中期の遺跡は、今私たちが住んでいる場所より少し高い所にあります。例えば、館ノ川遺跡や小川上野遺跡、深沢遺跡などがあります。土器の特徴としては、突起（突き出た部分）やS字状の文様など際立った文様を付けたものが多く大型の土器です。

再埋葬が発見された福島県指定史跡の窪田遺跡は、縄文時代から弥生時代の遺跡です。再埋葬は、出土した土器から弥生時代のものと考えられますが、住居跡や周辺から出土した土器は、縄文時代晩期（約3,200年～2,400年前）のものがとても多く出土しています。窪田遺跡は様々なものが出土しており、土器や石器だけでなく、魚を捕るために使用したと考えられる土錘（土を焼いたおもり）や石錘（石のおもり）や耳飾りに使用した耳栓、土偶などが見ついています。

只見町史などに掲載された土器などを一挙に見られる機会となっています。また、寄贈された土器を初出品して展示していますので是非ご来館ください。

文：渡部賢史
写真：小林宗一



▲小川上野遺跡 縄文時代中期の土器



▲窪田遺跡出土 縄文時代晩期の土偶



▲窪田遺跡出土 土錘(どすい)



▲深沢遺跡 縄文時代中期の土器



ただみ・モノとくらしのミュージアム 展示情報



奥会津文化施設間連携企画展「奥会津の縄文」

会期：2023年7月22日(土)～11月12日(日)

場所：ただみ・モノとくらしのミュージアム ふれあいホール

入館無料